

令和4年度 ヤングケアラーに関する実態調査の結果について(概要)

1. 調査目的

県内におけるヤングケアラーの実態調査により、ヤングケアラーの認知度を高め、理解を深めるとともに、本県のヤングケアラーの傾向を把握し、今後の施策に反映する。

2. 調査対象 県内すべての中学校2年生、高校2年生にアンケートを実施
中学2年生 88校 (8,699人)、高校2年生 67校 (9,001人)

3. 調査方法 各学校において対象者に調査依頼文を配布
対象者は、依頼文に記載されたQRコードからWebにより回答(任意)

4. 実施期間 令和4年9月23日～10月21日

5. 回答状況 有効回答者数及び回答率

中学2年生 1,227人 回答率14.1%

高校2年生 1,974人 回答率21.9%

■ ヤングケアラーとは



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

出典：厚生労働省HPより (<https://www.mhlw.go.jp/young-carer/>)

6. 調査結果（概要）

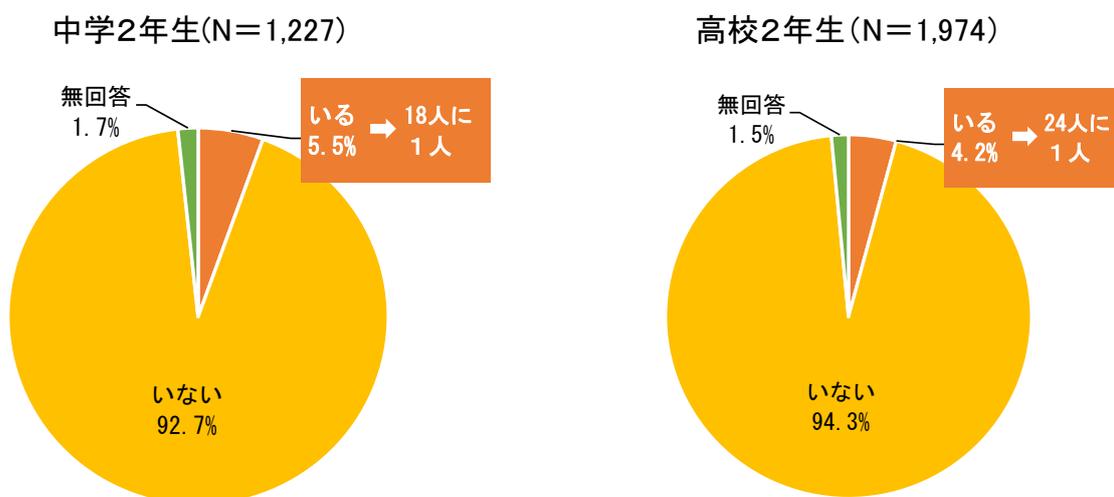
(1) 世話をしている家族の有無

世話をしている家族が「いる」と回答したのは、中学2年生が5.5%（全国調査（※）5.7%）、高校生が4.2%（全国調査4.1%）となっており、全国調査の結果といずれもほぼ同じ割合となっている。

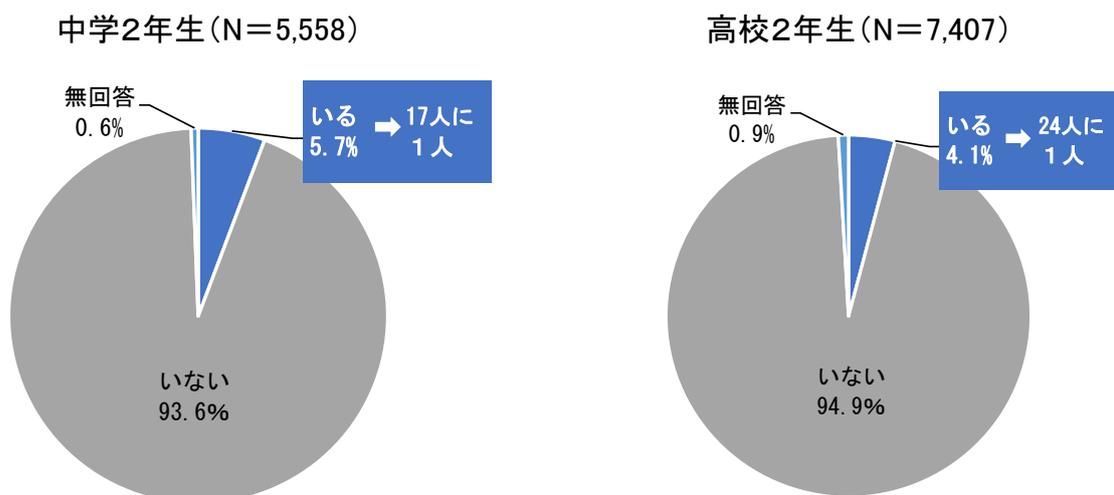
※全国調査とは、令和2年度に実施された全国調査の結果（次ページ以降も同様）

図表1. 世話をしている家族の有無

【富山県】



【全 国】 ※令和2年度に実施された全国調査の結果

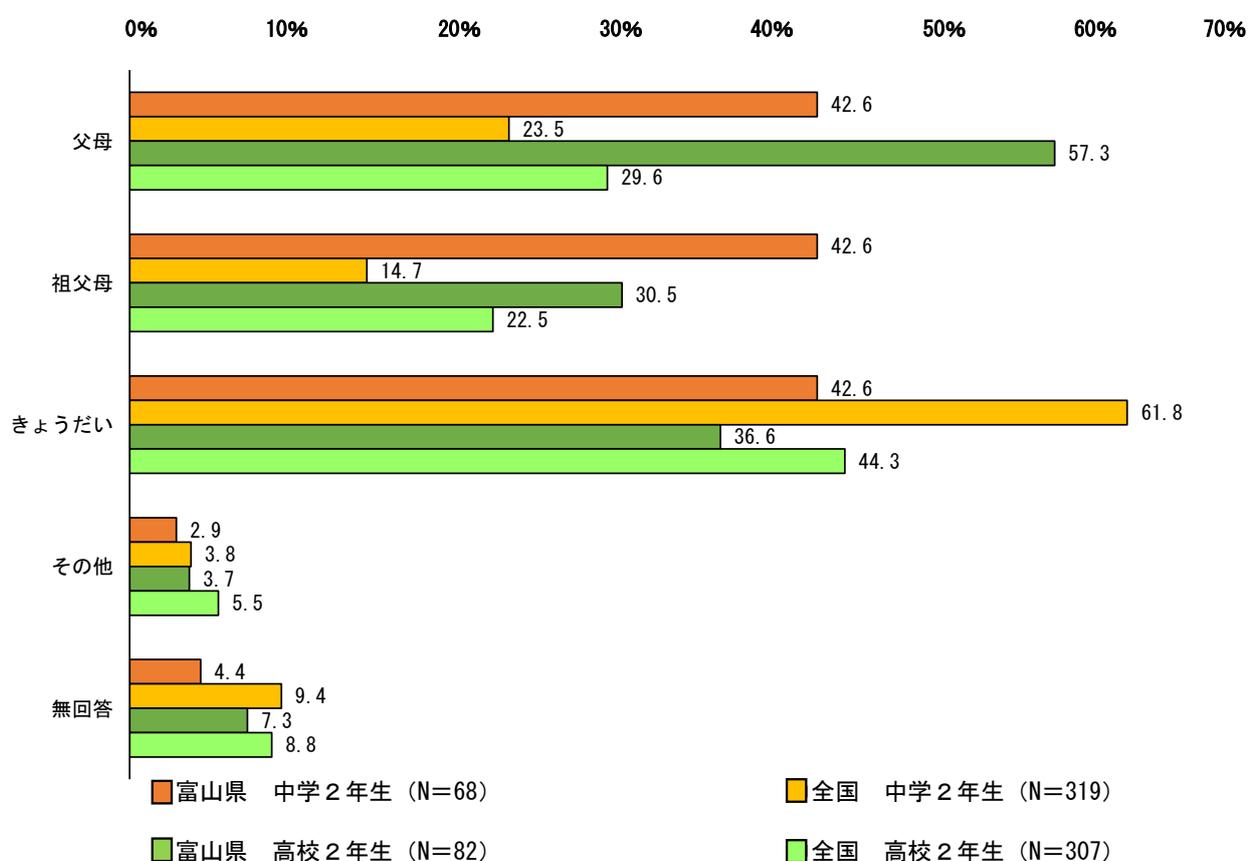


(2) 世話を必要としている人

(1) の世話をしている家族が「いる」と回答した人のうち、世話をしている家族の内訳は、中学2年生では、「父母」、「祖父母」、「きょうだい」は同数の割合となり、高校2年生では、「父母」、「きょうだい」、「祖父母」の順となっている。

「父母」、「祖父母」の割合が中学2年生（父母 42.6%、祖父母 42.6%）、高校2年生（父母 57.3%、祖父母 30.5%）ともに全国調査の結果と比較して高く、一方、「きょうだい」の割合が中学2年生（42.6%）、高校2年生（36.6%）ともに全国調査の結果と比較して低くなっている。

図表2. 世話を必要としている家族の内訳(複数回答)



(3)世話の内容

(1)の世話をしている家族が「いる」と回答した人のうち、世話の内容は、「父母」では、中学2年生、高校2年生ともに「家事」の割合が最も高く、全国調査の結果も同様となっている。

「祖父母」では、中学2年生で「見守り」の割合が最も高く、高校2年生で「外出の付き添い」が最も高くなっており、全国調査の結果は、中学2年生では同様であるが、高校2年生では「見守り」が最も高くなっている。

「きょうだい」では、中学2年生と高校2年生ともに「見守り」の割合が最も高くなっており、全国調査の結果は、中学2年生では同様であるが、高校2年生では「家事」が最も高くなっている。

図表3 世話の内容(複数回答)

【富山県】

	中学2年生	高校2年生
父母	N=29 ①家事 44.8% ②感情面のサポート 17.2% ③外出の付き添い 13.8%	N=47 ①家事 46.8% ②見守り 23.4% ③感情面のサポート 21.3%
祖父母	N=29 ①見守り 44.8% ②家事 27.6% ③感情面のサポート 17.2%	N=25 ①外出の付き添い 44.0% ②見守り 40.0% ③家事 28.0%
きょうだい	N=29 ①見守り 69.0% ②家事 37.9% ③外出の付き添い 27.6%	N=30 ①見守り 50.0% ②身体的な介護 36.7% ③家事 33.3%

【全国】

	中学2年生	高校2年生
父母	N=75 ①家事 73.3% ②外出の付き添い 38.7% ③見守り 24.0%	N=91 ①家事 68.1% ②外出の付き添い 26.4% ③感情面のサポート 17.6%
祖父母	N=47 ①見守り 57.4% ②家事 42.6% ③外出の付き添い 40.4%	N=69 ①見守り 52.2% ②家事 43.5% ③感情面のサポート 31.9%
きょうだい	N=197 ①見守り 68.0% ②家事 37.6% ③きょうだいの世話や保育所等への送迎など 34.0%	N=136 ①家事 56.6% ②見守り 53.7% ③きょうだいの世話や保育所等への送迎など 43.4%

(※) 上位3つのみ掲載

※家事：食事の準備や掃除、洗濯

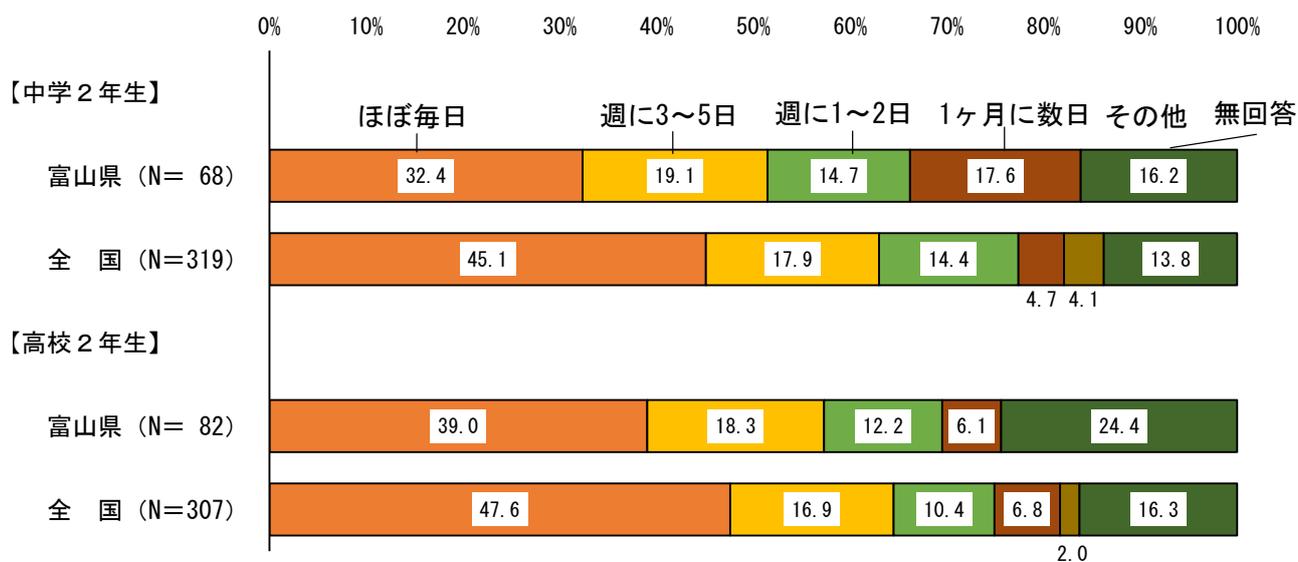
※外出の付き添い：買い物、散歩など

※感情面のサポート：愚痴を聞く、話し相手になるなど

(4) 世話の頻度

(1) の世話をしている家族が「いる」と回答した人のうち、その頻度は、中学2年生、高校2年生ともに「ほぼ毎日」の割合（中学2年生 32.4%、高校2年生 39.0%）が最も高く、全国調査の結果（中学2年生 45.1%、高校2年生 47.6%）と比較して、いずれも低くなっている。

図表 4. 世話の頻度



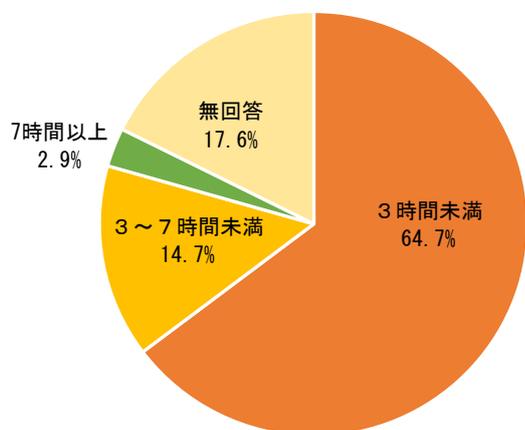
(5) 平日に行う世話の時間

平日に行う世話の時間は、中学2年生、高校2年生ともに「3時間未満」の割合（中学2年生 64.7%、高校2年生 46.3%）が最も高くなっているが、3時間以上世話をしている中学2年生の割合は17.6%（「3～7時間未満」と「7時間以上」の合算）、高校2年生の割合は24.4%（同上）となっており、全国調査の結果（中学2年生 33.5%、高校2年生 35.1%）と比較して、いずれも低くなっている。

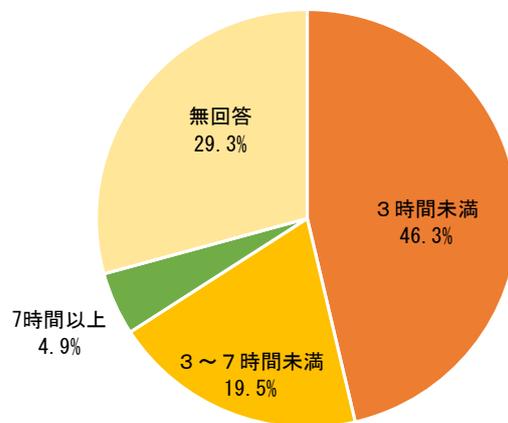
図表5. 平日に行う世話の時間(1か月の中で最も長かった日の時間)

【富山県】

中学2年生 (N=68)

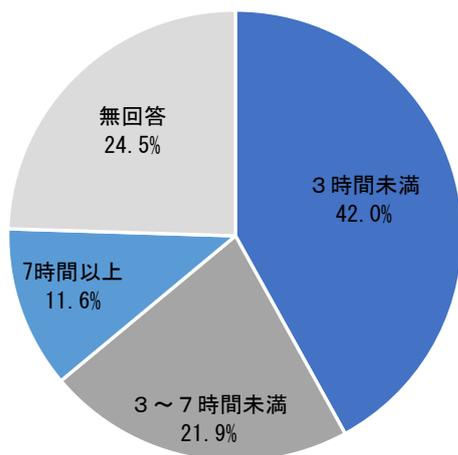


高校2年生 (N=82)

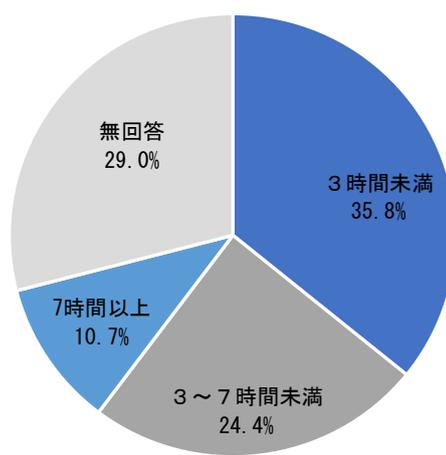


【全国】

中学2年生 (N=319)



高校2年生 (N=307)



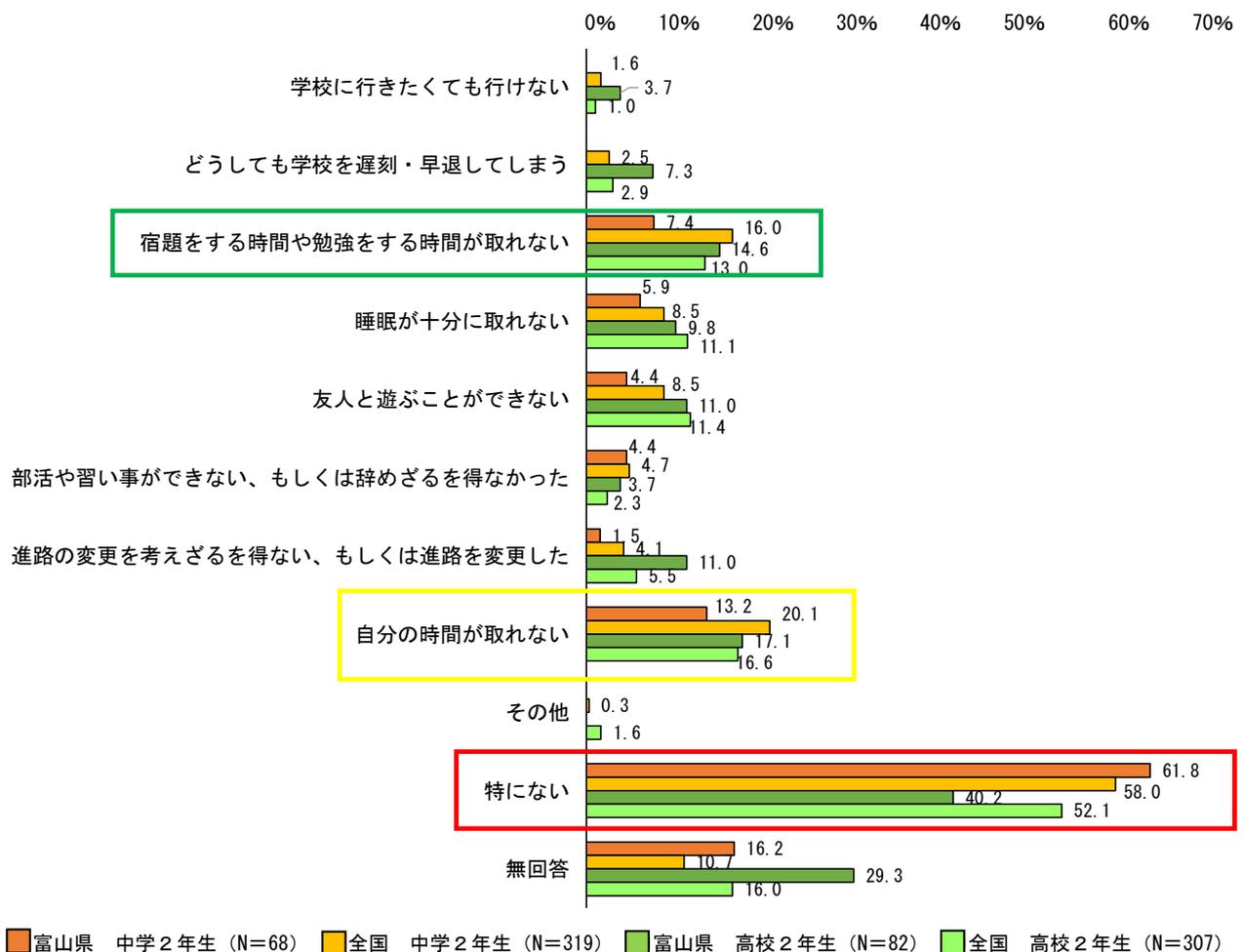
(6)世話をしていることでできていないこと

(1)の世話をしている家族が「いる」と回答した人のうち、世話をしていることで、やりたいけど、できていないことは、中学2年生、高校2年生ともに「特にない」の割合（中学2年生 61.8%、高校2年生 40.2%）が最も高いが、高校2年生が中学2年生よりも約20%低い割合となっている。

そのため、高校2年生では、「自分の時間が取れない」、「宿題をする時間や勉強をする時間が取れない」の割合が中学2年生と比較して高くなっている。

また、中学2年生、高校2年生ともに全国調査の結果と同様に、次いで、「自分の時間が取れない」、「宿題をする時間や勉強をする時間が取れない」の順となっている。

図表6. 世話をしていることでできていないこと(複数回答)

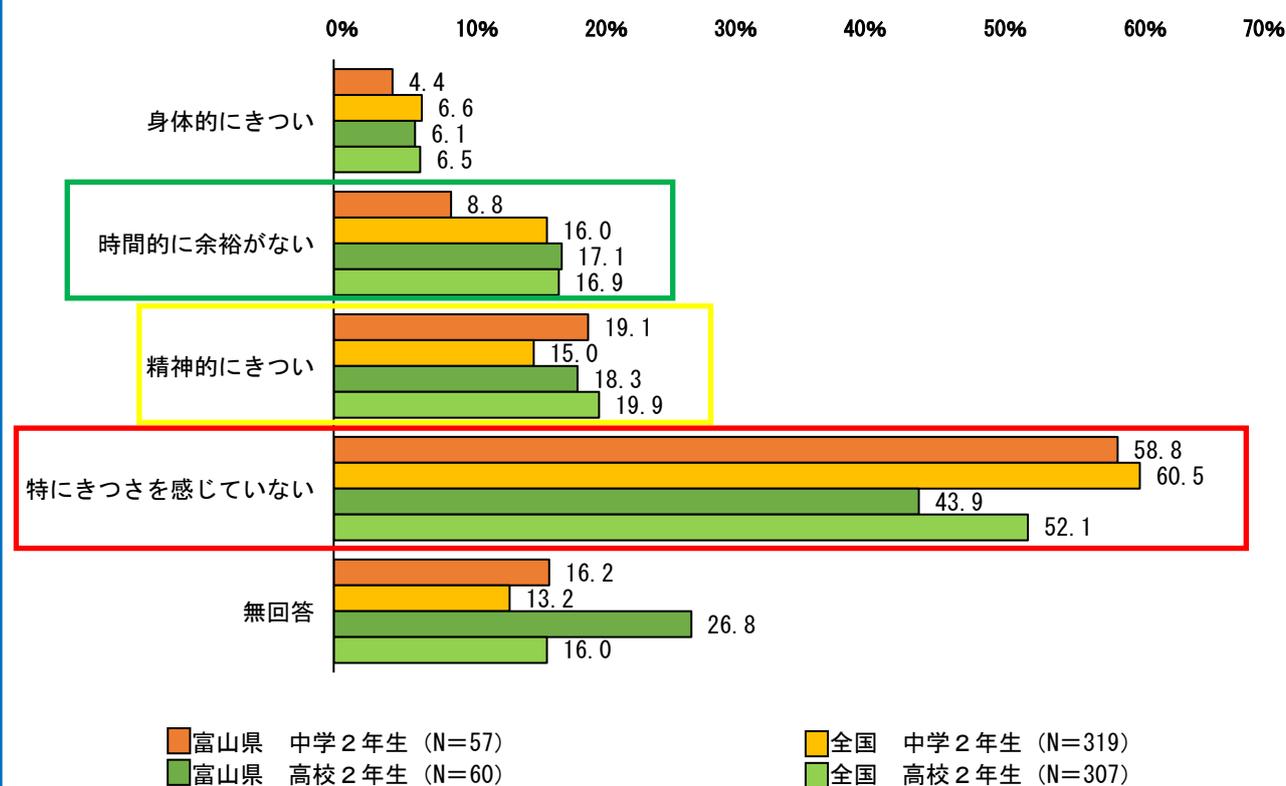


(7) 世話をすることに感じているきつさ

(1) の世話をしている家族が「いる」と回答した人のうち、世話をすることに感じているきつさは、中学2年生、高校2年生ともに「特にきつさを感じていない」の割合（中学2年生 58.8%、高校2年生 43.9%）が最も高いが、高校2年生が中学2年生よりも約15%低い割合となっている。

また、中学2年生、高校2年生ともに次いで、「精神的にきつい」、「時間的に余裕がない」の順となっており、高校2年生では、全国調査と同様であるが、中学2年生では、その逆となっている。

図表7. 世話をすることに感じているきつさ(複数回答)



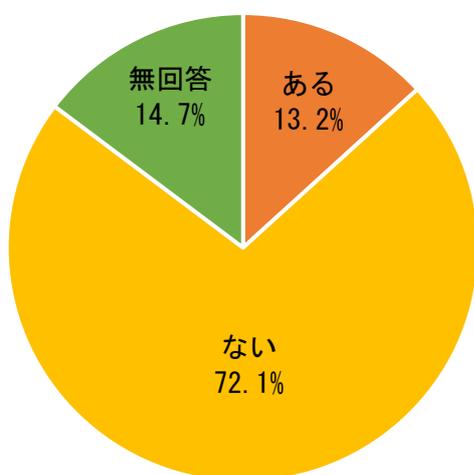
(8)世話の悩みを誰かに相談した経験

(1)の世話をしている家族が「いる」と回答した人のうち、世話の悩みを誰かに相談した経験が「ない」のは、中学2年生では72.1%（全国調査67.7%）、高校2年生では52.4%（全国調査64.2%）となっており、全国調査の結果と比較して、中学2年生の割合は高く、高校2年生は低くなっている。

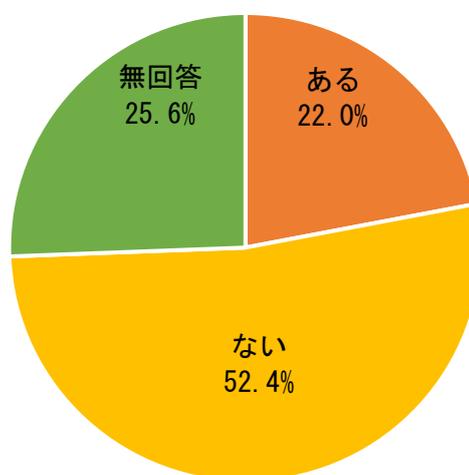
図表 8. 世話の悩みを誰かに相談した経験

【富山県】

中学2年生 (N=68)

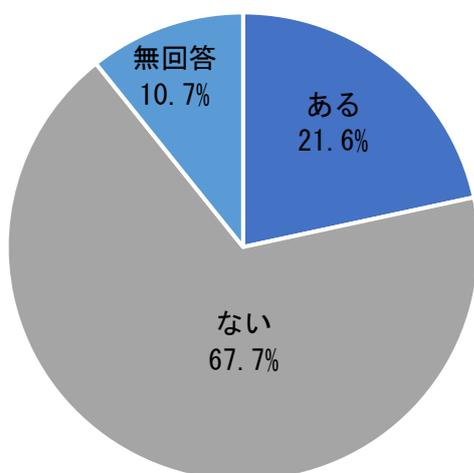


高校2年生 (N=82)

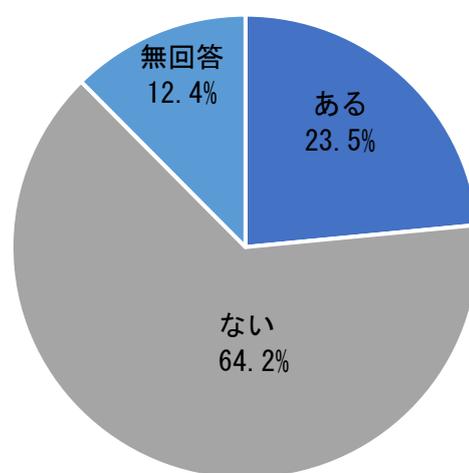


【全 国】

中学2年生 (N=319)



高校2年生 (N=307)

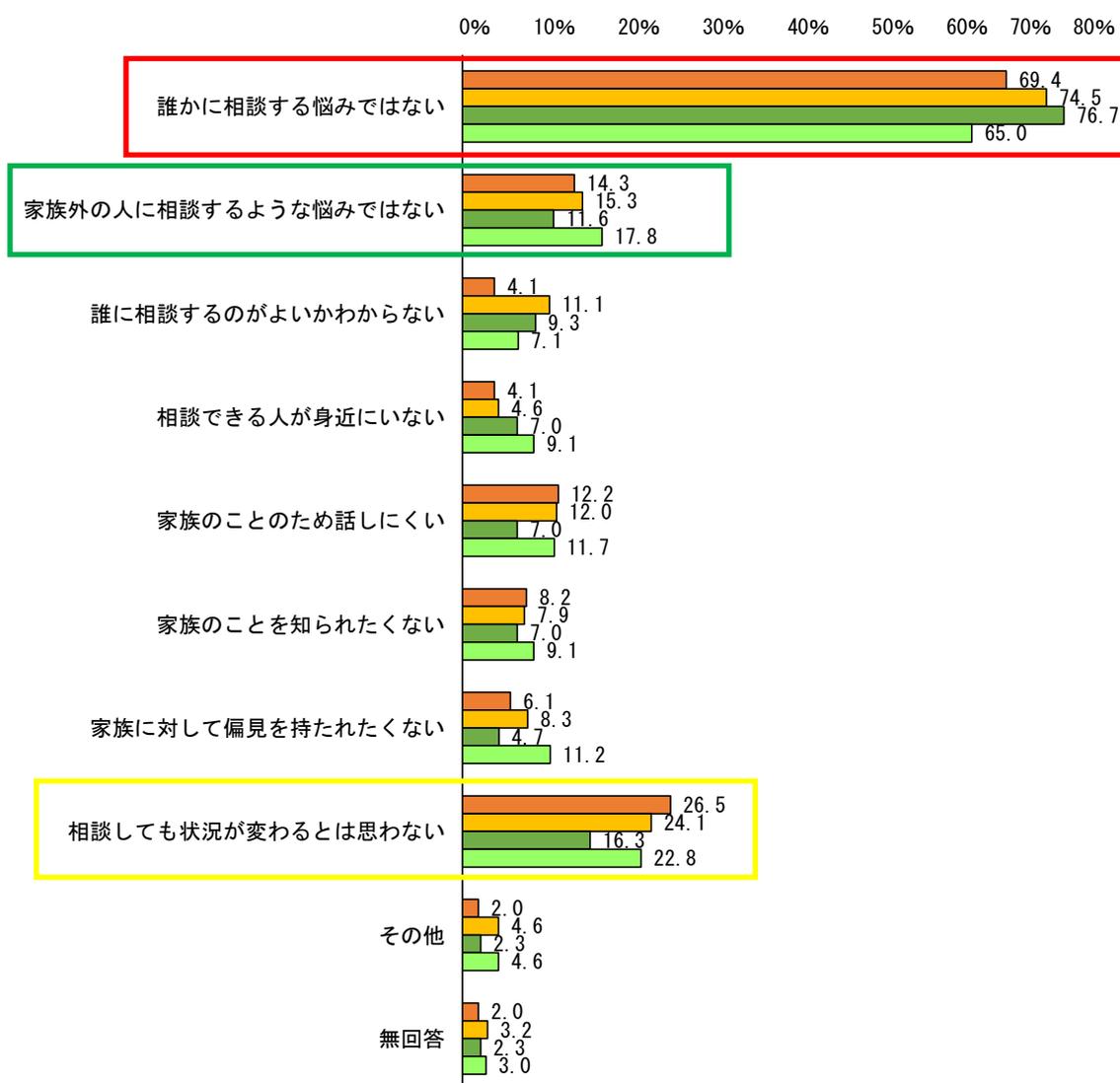


(9) 世話の悩みを相談していない理由

(8) の世話の悩みを誰かに相談した経験が「ない」と回答した人のうち、世話の悩みを相談していない理由は、中学2年生、高校2年生ともに「誰かに相談する悩みではない」が最も高くなっている。

また、中学2年生、高校2年生ともに次いで、「相談しても状況が変わるとは思わない」、「家族外の人に相談するような悩みではない」の順で、全国調査の結果と同様となっている。

図表9. 世話の悩みを相談していない理由(複数回答)



■富山県 中学2年生 (N=49) ■全国 中学2年生 (N=216) ■富山県 高校2年生 (N=43) ■全国 高校2年生 (N=197)

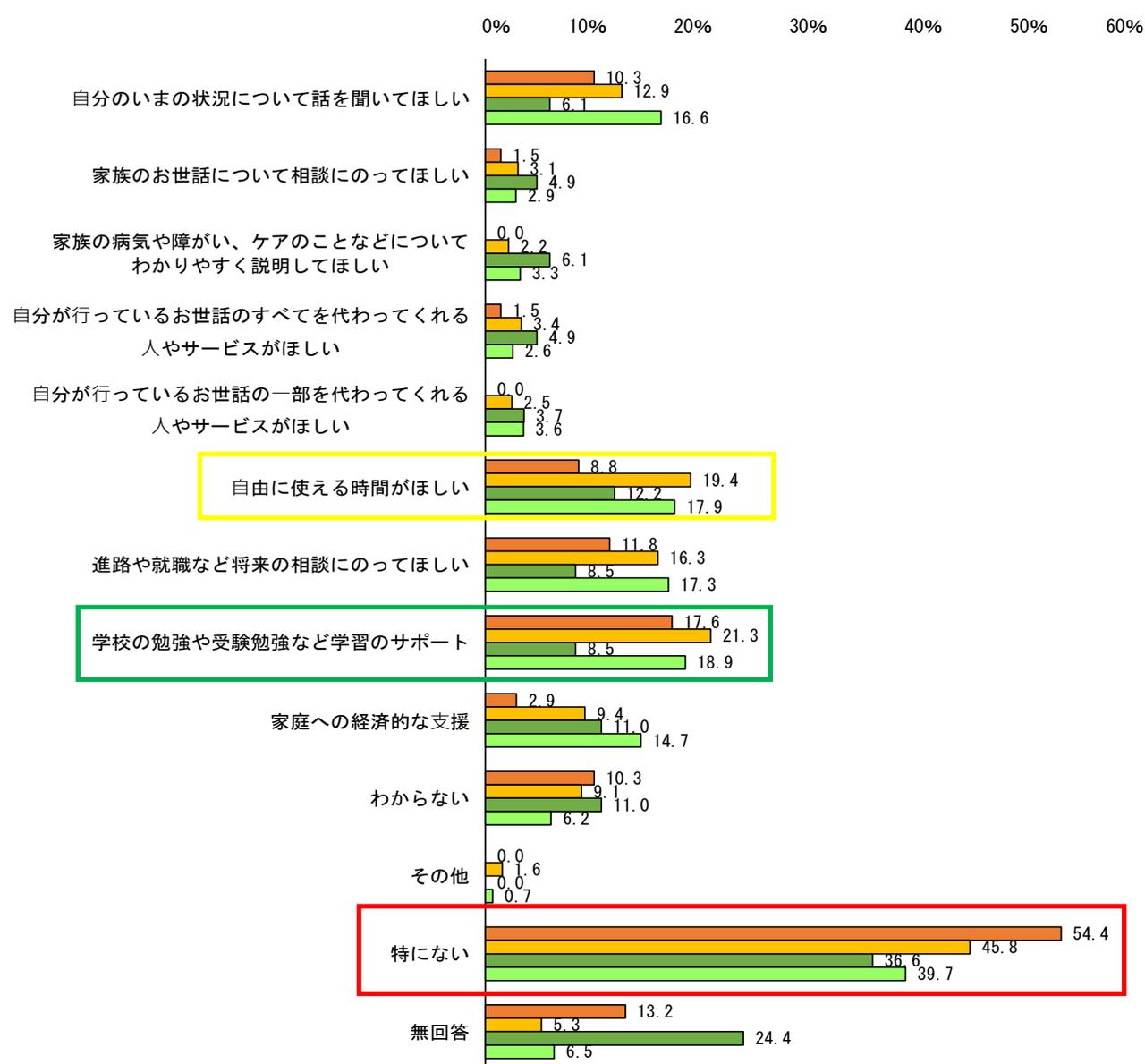
(10) 学校や周りの大人に助けてほしいことや必要としている支援

(1)の世話をしている家族が「いる」と回答した人のうち、学校や周りの大人に助けてほしいことや必要としている支援は、「特にない」の割合が最も高くなっている。

中学2年生では、次いで、「学校の勉強や受験勉強などの学習のサポート」の順で、全国調査の結果と同様となっている。

また、高校2年生では、次いで、「自由に使える時間がほしい」の順であるが、全国調査の結果は、次いで、「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」の順となっている。

図表10. 学校や周りの大人に助けてほしいことや必要としている支援(複数回答)



■富山県 中学2年生 (N=68) ■全国 中学2年生 (N=319) ■富山県 高校2年生 (N=82) ■全国 高校2年生 (N=307)

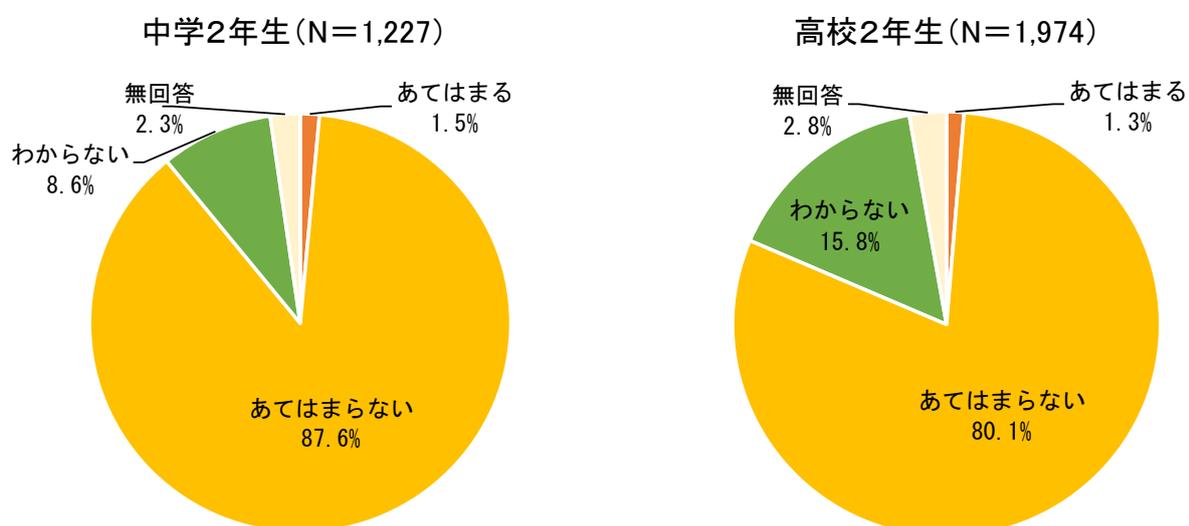
(11) ヤングケアラーの自覚

ヤングケアラーの自覚については、「あてはまる」と回答したのは、中学2年生1.5%（全国調査1.8%）、高校2年生が1.3%（全国調査2.3%）となっており、全国調査の結果と比較して、いずれも低くなっている。

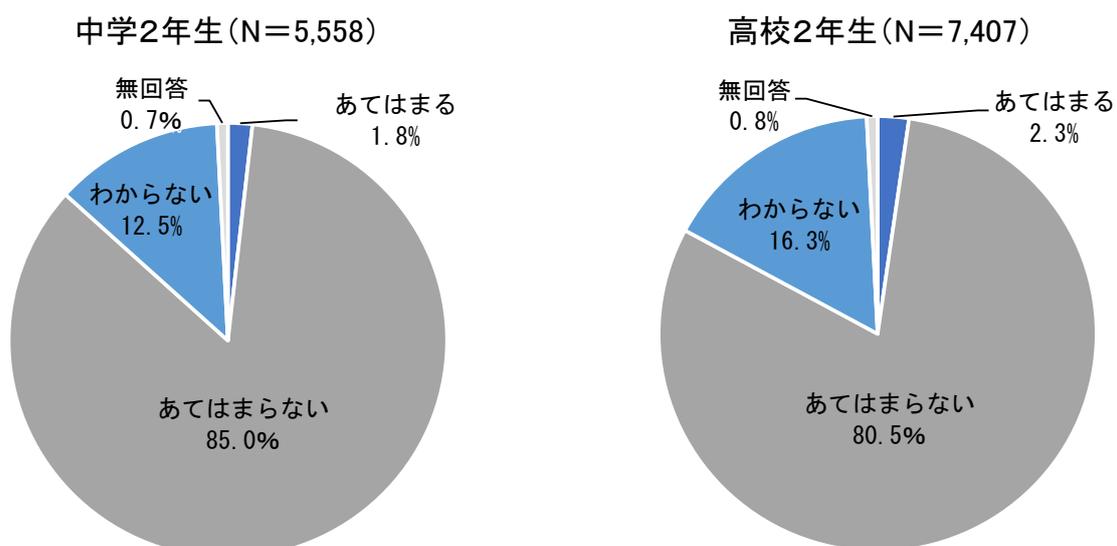
また、「わからない」と回答したのは、中学2年生が8.6%（全国調査12.5%）、高校2年生が15.8%（全国調査16.3%）であり、全国調査の結果と比較して、いずれも低くなっている。

図表 11. ヤングケアラーの自覚

【富山県】



【全国】



(12) ヤングケアラーの認知度

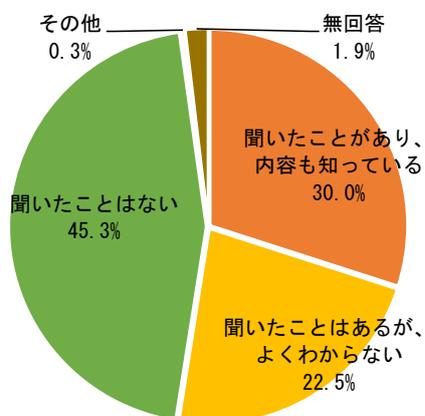
ヤングケアラーの認知度については、「聞いたことはない」と回答したのは、中学2年生が45.3%（全国調査84.2%）、高校2年生が45.8%（全国調査86.8%）となっており、全国調査の結果と比較して、いずれも低くなっている。

一方、「聞いたことがあるが、よくわからない」と回答したのは、中学2年生が22.5%（全国調査8.8%）、高校2年生17.7%（全国調査6.9%）となっており、全国調査の結果と比較して、いずれも高くなっている。

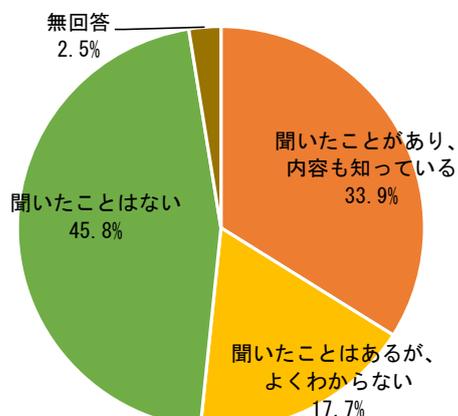
図表12. 「ヤングケアラー」の認知度

【富山県】

中学2年生 (N=1,227)

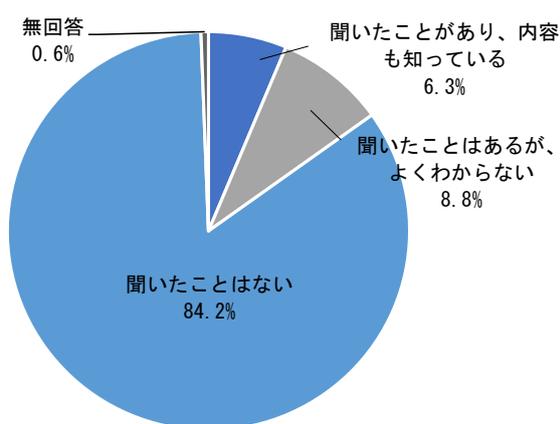


高校2年生 (N=1,974)

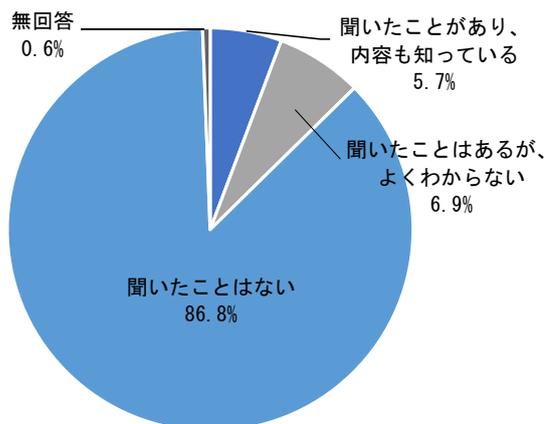


【全国】

中学2年生 (N=5,558)



高校2年生 (N=7,407)



(13) ヤングケアラーへの支援を広げていくために必要だと思うことや要望等(自由意見)

○学校等での取組み

- ・言葉自体を知らない人が多いため、学校の授業などで取り扱う場を設けるとよいと思う。
- ・自分が初めて知ったように理解が深まっていないのが一番の問題であるので、まず理解力向上に対する取組みが必要と思う。
- ・学校側の勉強や授業の支援が必要と思う。
- ・学校などでヤングケアラーに関する講演会を開催する、その際は、アニメの活用が効果的と思う。

○機会や環境での取組み

- ・介護を必要としているのに、経済的な問題で介護サービスを受けられない人のために自治体何かしらの取組みを行えばよいと思う。
- ・若い才能を経済的な問題などで潰さないでほしい。
- ・世話の仕方を学びたい。やらなければいけないことだからこそ、世話を効率的にして、負担を減らすために世話の勉強をしたい。
- ・現在ヤングケアラーのことを知っている人はあまりいないと思うので、少しでもヤングケアラーについて広めてほしい。
- ・気付いていなくても知らずにヤングケアラーの人はいると思うので、そういう人がつらい思いをしないよう、ヤングケアラーの知識を自分もつけていきたい。
- ・ネットでの活動配信をもっと増やしていくこと、相談できる場所や気軽に電話できる場所を増やしてほしい。

○支援や給付面

- ・ヤングケアラーになりうる家庭には、訪問介護を無償にするなどして、こどもの負担を減らすことが大切と思う。
- ・ヤングケアラーが該当する家庭では、ヘルパーさんや家政婦さんの利用料金を割引し、その利用を学校でも確認できるようにする。

○感想や意見

- ・自分は、少し前までヤングケアラーで祖父の世話をしていた。祖父は、要介護5の重度の認知症を患っていたが、体は丈夫で、元気な祖父に自分の言っていることを理解してもらえないことがとても辛かった。
- ・もっとヤングケアラーに寄り添ってくれるような社会になってほしい。
- ・ヤングケアラーは、世話をする対象の人がいなくなっても、世話をした過程での傷は今でも癒えない。そんな辛い思いをする人が少しでも減ってほしい。